（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

２０１９ 年度（平成 ３１ 年度）学校評価自己評価表

中央中学校区	校番　５３	福山市立西深津小学校
	最終更新日	2019年（平成３１年）４月１日

Ⅰ　福山市

ミッション　福山に愛着と誇りを持ち，変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン　「福山１００ＮＥＮ教育」の基本理念のもと，各中学校区・学校が「２１世紀型“スキル＆倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し，日々の授業を中心として評価・改善を進めながら，子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

○児童生徒実態に基づくマネジメントサイクル
○課題発見解決型の授業改善
○学力向上への指導工夫改善
○共感的人間関係の構築，自己肯定感の高揚
○開かれた学校とわかりやすい発信

児童生徒の現状

○子ども主体の学びづくりの中で，主体性が育ちつつある。
○小中共通の取組で，中学校生活に円滑に移行できている。
●不登校傾向にある児童生徒数の割合が高い。
●家庭での学習習慣をより主体的にする必要がある。

育成する力（21世紀型“スキル&倫理観”）	スキル・・・　A【課題発見・解決力】　B【思考力・判断力・表現力】 倫理観・・・　C【協調性】　D【思いやり】
めざす子ども像（義務教育修了時の姿）	ふるさとを愛し，地域の中で，伸びやかにたくましく成長している
中学校区として統一した取組等	１　校区合同で実施する授業研究 ２　生徒会による「いじめＳＴＯＰ集会」や「あいさつ運動」の実施

Ⅲ　自　校

ミッション

高い志を持ち，たくましく生きる子どもの育成

学校教育目標

「学ぶ楽しさ，生きる喜び」を持つ子どもの育成

現　状

＜児童生徒＞
○基本的生活習慣，学習習慣は概ね定着しており，問題行動もほとんどなく，落ち着いた学校生活を送っている。
●読む力や書く力に課題があり，論理的に考え，表現することが苦手である。
●自己肯定感が低く，主体的に動けない児童が多い。

＜授業＞
○単元計画に基づいて，児童が見通しを持って学習活動を行っている。
○考えの根拠やそこに至った経緯などを話し合う場面を意図的に設けている。
●児童が主体的に行う授業についてのイメージが明確にもてていない。

育成する力（21世紀型“スキル&倫理観”）		スキル・・・　A【課題発見・解決力】　B【思考力・判断力・表現力】 倫理観・・・　C【協調性】　D【思いやり】
めざす子ども像	低	A　自分で決めたことを最後までやり通すことができる。 B　お互いの考えを聴き合い，思いを伝え合うことができる。 D　相手の立場に立って，友だちの気持ちを考えることができる。
	中	A　日々の学習や生活の中で課題を見つけ，解決しようと努力することができる。 B　他者の考えを聴き，さまざまな気づきを持ち，自分の考えと比べながら表現できる。 D　友だちの気持ちや周囲の思いを考えた行動ができる。
	高	A　聴いたり調べたりしたことから新たな課題を設定し，解決に向けての情報収集ができる。 B　他者の考えの意図を感じながら聴き，自分の考えを深め，その変化を表現することができる。 D　相手や場に応じて適切な言動ができると同時に，今，何をすべきかを周囲に提案できる。
研究	教科等	算数，家庭科
	主題・内容等	豊かな対話で，「学ぶ楽しさ」のある授業の創造 ～聴き合い，学び合う子どもの育成を通して～ ①　児童が単元全体を見通し，単元の流れをマネージメントする授業 ②　児童が課題を設定し，課題解決方法を考え，主体的に展開する授業
めざす授業の姿		子ども達が思いや考えをつなぎ，友達の意見を取り入れたり，再度考えたいことを全体に問い返したりしながら学び合いを深める授業

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立西深津小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（２月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
2	児童の主体的な学びを全教室で展開	★	継続	年間指導計画に基づき「自ら考え学ぶ授業」を実践する。	研究授業，研究協議を通して，児童が主体の学びの姿の変容について検証・協議する。	児童アンケート（授業の中で友だちと協力して問題を解決したことがある） 保護者アンケート（学習に積極的に取り組んでいる） 肯定的回答85%以上									
3	福山や地域への愛着と誇り，地域への貢献意識の醸成	★	継続	児童が，地域行事やボランテイア活動に，積極的に参加する。	地域ボランティアの協力を得たり，地域に出かけたりしての学習を全学年で実施する。	児童アンケート（自分の住んでいる地域が好き） 肯定的回答85%以上									
					「あいさつ日本一」を目標とし，地域から評価される挨拶をする。	児童アンケート（地域の人に自分からすすんで挨拶をしている） 肯定的回答90%以上									

1	業務改善・業務削減の推進		新規	目指す授業の姿に向けて授業づくりを行う時間を確保する。	入退校時刻記録を基に時間管理の意識改革及び業務の見直し・電子化を行う。	アンケート （業務改善により授業づくり以外に行う業務が減っている） 肯定的回答 ７０％以上 時間外勤務月平均４５時間以内									

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	１００％以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	８０％以上１００％未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	６０％以上８０％未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	４０％以上６０％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	４０％未満の達成度	目標を達成できなかった。